

報道各位

2025年3月31日

小田急電鉄株式会社

日揮ホールディングス株式会社

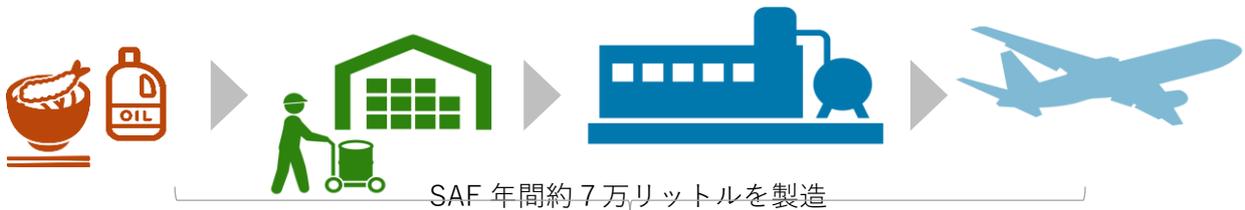
株式会社レポインターナショナル

合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY

国産 SAF（持続可能な航空燃料）製造へ向け、基本合意書締結

～4月1日から使用済み食用油の再活用・収集で連携、国内資源の循環促進へ～

小田急電鉄株式会社（本社：東京都新宿区 取締役社長 鈴木 滋）、日揮ホールディングス（HD）株式会社（本社：横浜市西区 代表取締役会長 CEO 佐藤 雅之）、株式会社レポインターナショナル（本社：京都市下京区 代表取締役 CEO 越川 哲也）、合同会社 SAFFAIRE SKY ENERGY（本社：横浜市西区 代表者 秋鹿 正敬）の4社は、2025年3月31日（月）、使用済み食用油（廃食用油）を国産の持続可能な航空燃料（SAF、「Sustainable Aviation Fuel」の略）の原料などとして再活用する取り組みのため、相互に協力する基本合意書を締結しました。翌4月1日（火）より、小田急グループ各施設の廃食用油年間約8.5万リットルの再活用を開始、沿線を中心に排出元を開拓するなど、その収集力も高めていきます。SAFは従来の航空燃料に比べて環境負荷が低く、日揮HDなどが国内初の大規模製造サプライチェーンを構築し、4月頃より航空各社へ供給を始める予定です。SAFの安定供給を支援することで、国内の資源循環を促進し、脱炭素社会の実現を目指します。



廃食用油提供	収集・運搬	SAF 製造	消費
小田急グループ	レポインターナショナル	SAFFAIRE SKY ENERGY	国内外航空会社
小田急電鉄	提供元開拓		
【全体統括】日揮ホールディングス			

4月1日より提供開始する廃食用油は、小田急商事株式会社が運営するスーパーマーケット「Odakyu OX」など50店と株式会社小田急レストランシステム運営の飲食店「名代箱根そば」など49店から出るものです。回収した廃食用油は、年間約7万リットルのSAFに再生される予定で、約200トンのCO₂削減効果を見込んでいます。小田急電鉄はSAFの社会理解促進を図る「Fry to Fly Project」にも加わり、沿線などでの情報発信、排出事業者の紹介などによって取り組みの拡大を図ります。

小田急電鉄では2021年より、廃棄物の収集と資源化を支援する事業「WOOMS（ウームス）」を通じて、同サプライチェーンの廃食用油収集業務効率化に向けた研究・実証も進めています。4社で連携しながら、収集業務による環境負荷低減にも取り組んでいく考えです。

基本合意書の概要は下記のとおりです。

記

- 1 締結日 2025年3月31日(月)
- 2 廃食用油の提供開始日 2025年4月1日(火)
- 3 目的 廃食用油の SAF としての再資源化に向けて相互に積極的に取り組み協力すること

4 各社の役割	<p>【小田急電鉄】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ各施設などより排出される廃食用油を SAF 製造向けに引き渡す ・SAF の重要性をグループ運営施設や沿線自治体・関係者へ発信する ・廃食用油の排出事業者を紹介、収集方法やルート構築の支援 ・沿線自治体などへの廃食用油再資源化の提案、収集ルート構築の支援 	<p>【提供店舗】※</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田急商事 スーパーマーケット 「Odakyu OX」など 50店 ・小田急レストラン システム 「名代箱根そば」など 49店 <p>※グループ各施設へ 順次拡大します</p>
---------	---	--

収集運搬	<p>【レポインターナショナル】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排出される廃食用油を収集し、大阪府堺市の SAF 製造プラントへ運搬 ・収集量と運搬後の引き渡し量とを各社へ報告し、トレーサビリティを明らかにする 	<p>廃食用油 年間約 8.5 万 リットル収集 (想定)</p>
------	---	---

製造	<p>【SAFFAIRE SKY ENERGY】</p> <p>廃食用油を原料として SAF の製造を行う</p>	<p>SAF 年間約 7 万 リットル製造</p>
----	--	-------------------------------

統括	<p>【日揮ホールディングス】</p> <p>サプライチェーン全体の構築を主導、SAF や資源循環の重要性を主導的に発信</p>	
----	---	--

【参考】

■国内初の SAF 大規模製造事業 <https://www.jgc.com/jp/news/assets/pdf/20250110.pdf>

日揮 HD とレポインターナショナルは、コスモ石油株式会社と共同で合同会社「SAFFAIRE SKY ENERGY」を2022年に設立し、国内で発生する廃食用油のみを原料とした年間約3万キロリットルの SAF の供給を目指しています。2024年12月にコスモ石油堺製油所（大阪府堺市）内において SAF 製造装置の建設が完了し、2025年4月頃からの供給開始を見込んでいます。供給する SAF は、国際的な持続可能性認証である ISCC CORSIA 認証を取得しています。廃食用油を原料とする SAF は従来の航空燃料と比べ最大8割の CO₂ 削減効果があるとされています。なお、本事業は NEDO(国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構)の助成事業 (https://www.nedo.go.jp/koubo/FF3_100312.html) として採択されています。



建設が完了した SAF 製造装置
(コスモ石油堺製油所構内)



SAF の原料となる廃食用油受け入れ施設
(コスモ石油堺製油所構内)

■小田急電鉄 <https://www.odakyu.jp/>

美しい地球環境と優しい社会を未来の世代に引き継ぐことをグループの使命とし、グループ全体で2050年に CO₂ 排出量実質0を達成する「小田急グループカーボンニュートラル2050」を掲げて取り組んでいます。自治体や収集事業者、排出事業者向けに廃棄物の削減や資源化、業務効率化を支援するサービス「WOOMS」を提供しており、日揮 HD らの SAF 製造サプライチェーン構築事業にも参画して収集手法の研究開発・実証に取り組んでいます。

参照：<https://www.wooms.jp/2021/08/02/newsrelease-20210802/>

■Fry to Fly Project <https://www.jgc.com/jp/esg-hsse/initiative/fry-to-fly/>



廃食用油を原料とする SAF で航空機を飛ばす世界の実現をめざすプロジェクト。日揮 HD が発起人となって設立し、設立主旨に賛同する企業・自治体・団体が、家庭や飲食店など身近なところで発生する廃食用油の提供を通じて、日本国内における資源循環の促進に直接参加しています。212の自治体や企業、団体などが参画し、イベントなどを通じて SAF の社会理解促進をめざしています（2025年3月現在）。

以上